

「共に」学び、考え、行動する

ながれ

浅利 美鈴 (あさり みすず/京都大学大学院地球環境学堂 准教授)

私は現在、京都大学の地球環境学堂というところで、「環境教育論」という講座を担当している。一応、「教育」を標榜しているのだが、教育学などの基礎や専門的知見がある訳ではない。今回のお題については、あくまで大学等での自身の教育体験に基づいて雑感を綴らせて頂きたい。

そもそも「地球環境学堂」という所属組織…聞きなれないと思う。通常、〇〇研究科と呼ぶところ、ここは学堂と名乗っている。平たく言うと、「先生も学生も、文系・理系を問わず様々な学部（私は、元は工学部）から集まってきて、地球環境問題の解決を目指すための研究・教育・社会貢献活動を志している大学院」といったところだろうか。私自身がここにきて約5年になる。この大学院（修士課程）は、地球環境問題に関する基礎的な知識を幅広く学べるだけでなく、3か月以上のインターンで実務能力を身に付け、研究につなげることが求められる。ほぼ全ての講義が英語で行われることもあり、概ね半分は地球や地域の環境問題を解決したいとの志を持つ留学生である。

廃棄物管理や環境教育をテーマとする私の研究室も、まさに全世界からの留学生が集まってくる。困難な社会課題に立ち向かおうとする意欲的な学生が多いが、さて「学び、考え、行動する」力はどうだろう？特に、いわゆる途上国からの留学生を見ると、「学び、考える」ことには真面目に取り組むのだが、どうしても「行動する」ところまでいかない、もしくは、中途半端になることが多いように感じる。行動のレ

ベルにもよるが、「ごみ分別」「資源の節約」「節水・省エネ」などの日々の暮らしにおける行動が、手っ取り早く観察できる。またエッセイなどを書かせると、立派なものを提出してくるのだが、研究室に所属した当初の行動は見えてもらえない。まさに、ハイムーンまんが「意識と行動」そのものだ。もちろん、母国ではそのような受け皿がない（例えば、ごみの回収・リサイクルが根付いていないため、分別の習慣がないなど）といった状況も考えられる。しかし、日本に留学するレベルの学生の場合、現地では比較的恵まれた家庭環境にある場合が多く、節約や身の回りの細かな配慮、汗水かいての我慢や努力が求められなかったということも考えられる。

しかし、当研究室では、徹底して環境配慮行動を叩き込む。おそらく、京大一（いや、日本一??）のエコラボではないかと思う。ごみ分別は当然だが、省エネも徹底しており、冬もエアコンなしで、ウォームビズと炬燵で乗り切るくらいである。もちろん、日々の暮らしのマナーだけでなく、地域や大学、様々なコミュニティにおける社会貢献活動やリーダーシップ活動なども、積極的に後押しするようにしている。自分自身の背中も見られていると思うと背筋が伸びる想いだが、このような教育・コミュニケーションの効果は小さくないと思う。もともと、優秀な学生なので、みるみる吸収し、特に後輩の指導などを始めると、本領発揮となる。母国に戻ってからの活躍にも期待したい。

さて、当研究室には、学部生も多く出入

りしている。「エコ〜るど京大」という学生を中心とした学内団体の拠点になっているからだ。様々な出身地、様々な学部の学生が来るが、留学生同様、当研究室では、厳しい環境配慮行動が求められる。同時に、「学び、考え、行動する」ことを極めてもらうことが醍醐味となっている。

「学ぶ」は当然だが「とことん考え、議論する」ことを、何事においても大切にしている。考え方や関心が違う学生と議論を始めると、時間がいくらあっても足りない。気づいたら日付を跨いでいたということも度々だ。そのような中で、ユニークな提案やプロジェクトも生まれてきた。最近では「京都大学プラ・イドチャート」や「マイポトルダンス」「バラバラボ」「今日も明日もSDGs」など、名前からしても学生らしい取り組みが誕生している。どれも、数カ月の議論を経て、考え抜かれてきたものである。ただし、放っておくと、いつまでも考え続けてしまうので、行動に移すように背中を押すタイミングも重要なのだが…。「行動」力やスキルは、今時の学生らしく、私たちにはできないようなことを、いとも簡単にやってしまい、感心することも多い。オンラインでのイベントや、動画素材の作成などはもちろん、なんでも「ググって」解決・実行してしまい、頼もしい。

小学校等に対しても、特にSDGsをテーマにした授業／プログラム開発支援で、いろいろなところにお邪魔している。多くの場合、総合学習の時間を使うことになるが、タイトな中で効果的に進めるため、校長先生や担任の先生方とのやりとりが重要となる。生徒さんたちの「学び・考え・行動」それぞれの進度と、到達目標を丁寧に確認しながらプログラムを組んでいく。最近の授業は、内容もツールも進め方も、私

の想像を超えている。特に、子供たちによる授業の進行や、モチベーションアップの仕掛け、他の教科とも連携した展開などは、私の小学生時代では考えられない。アクティブラーニングの推進が叫ばれているが、現場は、まさに実現しようとしている。SDGsという、大人でも取っつきにくいテーマであるが、さすがは若い脳みそ！どんどん吸収して、様々な形で自分たちの暮らしや地域に落とし込んでいく。この小学生たちが、大人になったら、世の中どうなるのか??期待でいっぱいだが、その時には、私たちの世代は、戦力外通告を受けてしまうかもしれない。

こうしてみると、「どう育てるか?」ということへの解としては、私の場合、場を創って、時間を使って、一緒に実践していくことに尽きる。時間もエネルギーも必要となる。しかし、決して与えているばかりではない。私も共に学んでいるという実感がある。また、そこから波紋が広がっていく実感もある。最近では、オンラインにより、海外の学生や、国内の高校生とも、同じように「学び、考え、行動する」機会も増えてきた。地道にはあるが、こうして少しずつ、しかし確実に、この輪を広げていくことができればと思う。



ハイムーンまんが「意識と行動」
(注)点線が意識、実線が行動